

発行／土浦市 編集／市長公室広報広聴課
発行日／令和3年8月3日
人口と世帯数／(令和3年7月1日現在)
13万7621人 6万1694世帯

〒300-8686 茨城県土浦市大和町9番1号
☎029-826-1111(代表)
HP <https://www.city.tsuchinura.lg.jp/>
MAIL info@city.tsuchinura.lg.jp



次回「広報つちうら」8月中旬号は、
8月17日(火)発行予定です。



知って楽しむ！筑波山地域ジオパーク



第5回 大地の遺産 霞ヶ浦と帆引き船

日本第2位の広さを誇る霞ヶ浦。その霞ヶ浦で採れるワカサギやシラウオなどの漁に活躍していたのが帆引き船です。今回は、霞ヶ浦の成り立ちや、そこでの人々の営みと自然のつながりをジオパークの視点から紹介します。

霞ヶ浦

霞ヶ浦は、かつては太平洋につながる内海でした。約7千年前以降の海面低下、江戸時代に行われた利根川を付け替える治水事業、昭和以降の水門や堤防の設置により、内海(海水)から淡水湖へと大きく変貌を遂げています。

帆引き船

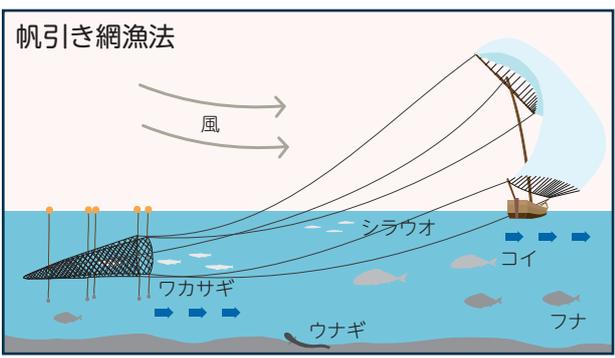
帆引き船は、高さ9m、幅16mもの巨大な帆を張り、風の力で船を横に流しながら、袋状の網で魚をとる船です。引網の長さは、60〜80mにもなります。

帆引き船を使った帆引き網漁法は、明治13(1880)年シラウオ漁を目的に、かすみがうら市の折本良平によって考案されました。その後、ワカサギ漁の主役として、昭和42(1967)年までの約100年間、霞ヶ浦

漁業の花形として二世を風靡(ふうま)した。雄大な霞ヶ浦に真っ白な帆を張り湖面を進む帆引き船の姿は、美しく情緒あるものです。ぜひご覧ください。

漁業の花形として二世を風靡。帆引き船の発明が、この地域に漁業と水産加工業の発展をもたらしました。その後、動力船によるトロール漁に取って代わられましたが、「観光帆引き船」として復活しました。

また、帆引き網漁法は現在では見る事ができなくなりましたが、平成30年に「霞ヶ浦の帆引網漁の技術」として、国選択無形民俗文化財に選定されました。



もっと知りたい！
という方へ

筑波山地域ジオパーク
ホームページ
右の二次元コードから

お問い合わせ
商工観光課(☎826-1111 内線2705)
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
(☎826-7111)

「観光帆引き船」見学船
乗船のご案内

観光帆引き船は、10月17日(日)までの毎週土・日曜日、祝日に操業しています。

◆ジェットホイルつくば号
時間／午後1時25分発
場所／常陽観光高速船発着所
料金／大人：1680円、小人：840円(未就学児無料)
問い合わせ／常陽観光(☎090-33313-5684)

◆ホワイトアイリス号
時間／午後1時30分発
場所／ラクスマリーナ
料金／大人：1570円、小人：780円(未就学児無料)
問い合わせ／ラクスマリーナ(☎02922-2437)